

第2回川口駅周辺まちづくりビジョン策定検討会 会議録	
日 時	令和3年11月15日（月）9時30分から11時30分まで
場 所	川口市役所第一本庁舎 6階 601大会議室
出 欠	（委員） ■ 中村座長 ■ 児玉副座長 ■ 樋野委員 ■ 山崎委員 ■ 伊藤委員 ■ 町田委員 □ 高橋委員 □ 石川委員 ■ 田中委員 ■ 熊井委員 ■ 齊藤委員 ■ 伊藤委員 ■ 小平委員 ■ 深津委員 ■ 清水委員 ■ 栗原委員 ■ 根岸委員 ■ 小西委員 ■ 野崎委員 ■ 早川委員 ■ 川田委員 ■ 大河原委員 （オブザーバー） ■ 川野政策審議員 出席者：■ 欠席者：□
事務局	都市交通対策室 佐々木室長、西村室長補佐、島川主査、田島主事 計 画 管 理 課 加藤課長 都 市 計 画 課 高橋課長、小泉課長補佐、神戸課長補佐、小舘主任、関根技師 再 開 発 課 新井課長、三尾課長補佐、登玉主任 株式会社日本設計 松本氏、田中氏、西村氏、長谷川氏、羽柴氏
議事内容	
1 開会 ・ 開会の宣言がなされた。 2 あいさつ ・ 中村座長より挨拶がなされた。 3 議題 （1） 検討会の進め方について ・ 都市交通対策室西村室長補佐より、本検討会の進め方について、説明がなされた。 （2） ビジョン（素案）について ・ 都市計画課小泉課長補佐より、「前回検討会及び相談役基調講演の振り返り」及び「ビジョン素案」について、説明がなされた。 4 意見交換 （1） 学識委員による講義 ① 樋野委員 ・ 川口駅周辺では、ウォーカブルなまちづくり（歩きやすいだけでなく、歩きたくなるまちづくり）が求められる。ウォーカブルなまちづくりは、疾病のゼロ次予防として、身体活動を促進する環境を整えるという観点からも重要である。	

- ・ 歩きやすい街の要素として、①歩行者志向のデザイン、②公共交通への近接性、③目的地へのアクセス（訪れたい目的地があること）、④土地利用の多様性、⑤居住密度の高さが挙げられる。
- ・ ニューヨークのアクティブデザインガイドラインを参考に、「身体活動を促すまちづくりデザインガイド（ベータ版）」を作成している。回遊性向上に役立つと思うので、参考にされたい。
- ・ アメリカのハイラインは、廃線となった鉄道の高架を歩行者空間化したものであるが、新たな歩行者ネットワークや観光拠点として評価されている。川口においても、歩行者の回遊性を高める仕掛けができると良い。
- ・ 歩行者と共存する小型・低速モビリティの活用についても、今後の検討課題である。
- ・ まちなかで集える場の創出は、ウォークアブルなまちづくりにつながる。例えば、川口駅のペデストリアンデッキは、移動の場ではあるが、休んだり交流したりできる場にはなっていない。また、集える場が発展していくとサードプレイス（自宅や職場とは別の心地よく過ごすことができる空間）になる。
- ・ 実証実験を繰り返すことで、まちづくりの実現につなげる考え方をタクティカル・アーバニズムといい、川口でもこれを取り入れていくべきである。

② 山崎委員

- ・ 樋野委員の講義にあったタクティカル・アーバニズムは、当方の専門とするコミュニティデザインの考え方に近い。
- ・ コミュニティデザインでは、仲間がいること、知り合いがいることでそこに行ってみようとなることが重要であり、そのためには、早期からの住民参加が必要である。
- ・ 市民参加によって計画した滋賀県草津川跡地公園のプロジェクトでは、2つの効果があった。1つ目は、公園の設計に利用者の意見が反映されたこと、2つ目は、意見を出したからには、利用しようという人が増えたことである。公共空間は、利用方法の決まりがないために、結局誰も使わなくなってしまうことが多いが、先行して活動する人がいると、それが自然とお手本になることや、後から興味を持った人も参加しやすいといった好循環が生まれる。
- ・ 鹿児島のマルヤガーデンズの事例では、デパートの中に市民活動の場を設けることで、活動する人とそれを見に来る人がデパートを訪れるきっかけにもなっている。
- ・ 延岡駅周辺では、駅周辺に来ればいつでもどこかの団体が活動をやっているという状況を生み出したいという思いから、「ノベオカノマドハウス」という場を作った。
- ・ まちを俯瞰して考えるまちづくりビジョンについては、行政や専門家等のみで議論して良いと思うが、今後、具体のまちづくりを検討していくにあたっては、市民参加で進めていくべきである。ビジョンには、「今後の進め方」を追記し、市民参加を盛り込むと良い。参加してくれる人は、周りを巻き込みながらまちづくりを先導してくれる。

(2) 意見交換

【学識委員】 移動状況等のビッグデータの活用は、回遊性だけでなく、防災や交通の観点にも取り入れるべきである。6つの分野の取組方針より上位の方針として、記載したほうがよいのではないか。まずは、ビッグデータを活用できるようインフラ整備を行い、その後で各分野の取組を進めていくべきと考える。市民参加についても同様に、より上位の方針として記載するべきである。

【市 委 員】 検討する。

【学識委員】 市民参加を呼び掛けるタイミングは、いつが良いか。

【学識委員】 早いほど良いが、早くから市民参加をする場合には、意見を求める対象を明確にしておかないと、議論が散漫となり、反映できなかった場合、不満が生まれやすい。そうならないために、まずは、大きな骨子を整理した本ビジョンが必要になる。ビジョンでは、具体の事業を進める中で、市民とともに考えたい部分について、余白を残すと良いのではないか。

【市 委 員】 タクティカル・アーバニズムについて、継続的に活動を続けていくために、留意すべきことはあるか。

【学識委員】 市民に愛着を持ってもらう関わり方を用意することが大事である。愛着を持ってもらえれば、完成後も協力してもらえる。例えば、ある施設では、完成前から花を植える等の活動を、市民とともにやっている。

【学識委員】 市民参加のはじめ方には、2つの方法がある。1つ目は、既存の市民団体に声をかけること。2つ目は、広く募集し個人として参加してもらうことである。前者の方が集めやすいが、団体としての主張が発生してしまうことが懸念点である。後者の方が手間はかかるが、同じ目的を持った方々が集まるため、参加者一人一人の帰属意識が生まれ、率先して取り組んでもらえる。長期的に見ると、後者の方が良い面が多い。

【商工委員】 ペDESTリアンデッキ等をイベントの場として活用することを市は認めるのか。以前、キューポ・ラ広場でのイベントを企画した際、市に相談したものの、かなわなかったことがあった。

【市 委 員】 行政としては、公共空間を活用して多様な活動を活発化していきたい一方、公共空間の管理者としての立場もある。例えば、ペDESTリアンデッキは、道路扱いであるため、利用に様々な制限がかかる。社会情勢やニーズを踏まえながら、対応していきたい。

【学識委員】 行政と市民が参画する運営協議会をつくり、運営にあたって認められること、認められないことを協議する体制づくりをしてはどうか。官民が連携した組織で決めたルールであれば、市民の理解も得やすい。

【商工委員】 キュポ・ラ広場で太鼓演奏のイベントを行った際、近隣の方等からクレームが入り、中止するよう市から要請を受けたことがある。運営協議会には、近隣の方等も参画していただきたいと感じたが、運営協議会を立ち上げる際の留意点を知りたい。

【学識委員】 多様な方に参加いただきながらルール作りを行うことは、良いと思う。その際、以下の3つの公平性の原理が担保されていることが重要である。

- ① なるべく多くの人に声を掛けること。
- ② 集まった人の意見を聞くこと。
- ③ 集まって議論していることを発信し、後から加入する人を排除しないこと。

【商工委員】 まちづくりの大きな骨子は、本ビジョンで定め、市民利用に関するものは、市民参加で今後議論するという認識で良いか。

【学識委員】 同様の認識である。

【学識委員】 同様の認識であるが、ハード面についても、ソフト面（利用の仕方）の検討を見据えて、余白を残しておくべきと考える。

【商工委員】 防災の取組方針が、不十分と考える。特に、昨今、危険度が増している、河川氾濫について、考慮してほしい。

【市 委 員】 現在整備中の荒川調節池によって、浸水の危険性は、低減される。また、地下貯留施設によって、令和元年東日本台風の際も川口駅周辺の浸水被害は少なかった等、災害対策は、一定の効果を発揮していると考えている。駅周辺でどこまで対策すべきかという観点や、昨今の災害の激甚化を踏まえて、改めて検討する。

【交通委員】 ビジョン素案に記載の「川口駅の利用者の増加」という文言について、コロナ禍の影響により、ここ2年は、利用者が減少しているため、表現を調整してほしい。

【市 委 員】 事務局にて検討する。

【商工委員】 通勤通学時は、駅が混雑しており、危ないという声があったため、改善の検討をお願いしたい。

【交通委員】 ビジョン素案を否定しているわけではなく、表現の問題であるため、ご理解いただきたい。

【商工委員】 他には、川口駅にアトレのような商業施設がほしいという意見もあった。

【交通委員】 コロナ禍といった情勢を踏まえながら、検討していくことが必要となる。駅の改良については、大規模な工事となること、線区全体のバランスを考慮する必要があること等を踏まえながら、今後も市と議論を続けたい。

【市 委 員】 雨天時も濡れないよう、デッキへの屋根の設置を求める意見や、リリアの施設の予約が取れず、大宮や浦和の会場を使うことも多い状況にあり、発表会の会場が足りていないという意見がある。

【学識委員】 ビジョン素案は、うまく整理されているが、各委員のご意見のとおり、重要なのは、市民参加を含む今後の進め方であると思う。余白のある可変性を残したビジョンとし、色々進めながら検討を深めていくことで、まちが変わっていくことを実感できると良い。また、駅周辺等の空間イメージがあれば、よりわかりやすいと思う。

5 事務局からの連絡事項

- ・ 追加の意見等は、事務局メールアドレス宛てに11月26日(金)までに送付いただきたい。
- ・ 次回検討会は、3月23日(水)14時から、第一本庁舎601会議室での開催を予定している。

以 上